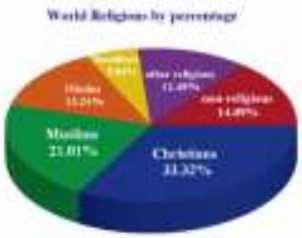
大阪インターナショナルチャーチ　ダニエル・エルリック牧師　　2011 年 9 月 18 日
シリーズ: 使徒 #05　　聖書箇所 (新共同訳) 使徒 2:22-36　　Key Verse: 使徒 2:36
タイトル: 信仰の根拠　　特別行事: フィリピノ＆フレンズ特別賛美

おはようございます。先週、私たちは使徒言行録 2 章の前半の学びをしました。そこで、弟子たちが五旬祭に聖霊のバプテスマを受けたという話をしました。先週のポイント聖句は**使徒 2 章 4 節**でした。 **「すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しだした。」**大半の聖書学者たちは、このできごとが教会の始まりだと考えています。そして、この時点から神が教会を急速に拡大させられたと考えています。



キリスト教会の急速な拡大は、歴史上のもっとも驚くべき事実のひとつに挙げられます。聖霊が力をもって弟子たちの上に臨まれた時、そ数はたったの 120 名でした。今日、世界の人口の 33%である 20 億人以上がイエス・キリストに従う者だと名乗っています。そして 21%の人々がイスラム教徒だと言います。イスラム教はキリスト教ではありませんが、イエスを大切な預言者の一人だと考えている宗教であることを見過ごすことはできません。合算すると、今日地球上に生きるすべての人の半分以上が、イエス･キリストによって多大な影響を受けているということになります。

インドや中国、日本など、いわゆるキリスト教国家でない国々でも、孤児院（児童養護施設）や学校、病院といった多くの施設がクリスチャンの働き人たちによって建てられています。また、貧困に苦しむ国々では、多くの人々が食料や衣服のような生活必需品について、キリスト教系支援団体の物資提供に頼っています。かたちはどうであれ、世界中のほとんどの集落でクリスチャンの奉仕が多くの人々に触れてきたのです。**使徒 1:8** で、イエスは弟子たちにこう言われました。**「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」**この預言的なことばは、すでに世界中ですばらしい方法で成就しています。しかし、先週お話したように、その働きは完成していません。クリスチャンは今もなお聖霊によって力を受けています。それは、地の果てに至るまで大胆なイエスの証人となるためです。

聖霊が臨まれたとき、ペトロは集まった群集に向かって、何が起きているのかを説明し始めました。**（使徒 2:14-17）すると、ペトロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始めた。「2:14 ユダヤの方々、またエルサレムに住むすべての人たち、知っていただきたいことがあります。わたしの言葉に耳を傾けてください。2:15 今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが考えているように、酒に酔っているのではありません。2:16 そうではなく、これこそ預言者ヨエルを通して言われていたことなのです。2:17『神は言われる。終わりの時に、／わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、／若者は幻を見、老人は夢を見る。』」**ペトロはこれらの言葉によって、そこで起こっているできごとが昔から預言されてきた聖霊の降臨であることを説明しました。先週は、ペトロが話を続けているところで終わりました。今日はその続きである使徒言行録 2:22-36 を読んで、ペトロが何と言っているか見ていきましょう。

I.　聖書朗読 使徒言行録 2:22-36、新共同訳

2:22 イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。神は、イエスを通してあなたがたの間で行われた奇跡と、不思議な業と、しるしとによって、そのことをあなたがたに証明なさいました。あなたがた自身が既に知っているとおりです。 2:23 このイエスを神は、お定めになった計画により、あらかじめご存じのうえで、あなたがたに引き渡されたのですが、あなたがたは律

法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまったのです。 2:24 しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかったからです。 2:25 ダビデは、イエスについてこう言っています。『わたしは、いつも目の前に主を見ていた。主がわたしの右におられるので、／わたしは決して動揺しない。 2:26 だから、わたしの心は楽しみ、／舌は喜びたたえる。体も希望のうちに生きるであろう。 2:27 あなたは、わたしの魂を陰府に捨てておかず、／あなたの聖なる者を／朽ち果てるままにしておかれない。 2:28 あなたは、命に至る道をわたしに示し、／御前にいるわたしを喜びで満たしてくださる。』 2:29 兄弟たち、先祖ダビデについては、彼は死んで葬られ、その墓は今でもわたしたちのところにあると、はっきり言えます。 2:30 ダビデは預言者だったので、彼から生まれる子孫の一人をその王座に着かせると、神がはっきり誓ってくださったことを知っていました。 2:31 そして、キリストの復活について前もって知り、／『彼は陰府に捨てておかれず、／その体は朽ち果てることがない』／と語りました。 2:32 神はこのイエスを復活させられたのです。わたしたちは皆、そのことの証人です。 2:33 それで、イエスは神の右に上げられ、約束された聖霊を御父から受けて注いでくださいました。あなたがたは、今このことを見聞きしているのです。 2:34 ダビデは天に昇りませんでしたが、彼自身こう言っています。『主は、わたしの主にお告げになった。「わたしの右の座に着け。 2:35 わたしがあなたの敵を／あなたの足台とするときまで。」』 2:36 だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」

II. 教え

弟子たちの上に聖霊が臨まれたとき、あらゆる国々の人々を含む大群集がその騒ぎを聞いてやってきました。そして、ペトロは御霊によって力を受け、群集に向かって大胆にイエスのことを話しています。**使徒 2:22 「イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。神は、イエスを通してあなたがたの間で行われた奇跡と、不思議な業と、しるしとによって、そのことをあなたがたに証明なさいました。あなたがた自身が既に知っているとおりです。」**イエスのすばらしい奇跡の数々は、当時すでにイスラエルに知れ渡っていたので、ペトロは「あなたがた自身が既に知っているとおり」だと容易に言うことができました。そして、ペトロは、これらの奇跡や業、しるしはすべて神ご自身がイエスをこの世に送られたことの証だと指摘しています。

続いてペトロは、エルサレムで最近起こったできごとを思い起こすよう促しています。**使徒 2:23 「このイエスを神は、お定めになった計画により、あらかじめご存じのうえで、あなたがたに引き渡されたのですが、あなたがたは律法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまったのです。」**ここでペトロが強調している点に注目してください。まず、イエスが十字架にかかられたのは初めから神のご計画だったことです。天地創造の前から、神の三位格はイエスがこの世に来て世の罪の代価を払う犠牲として死ぬことを決めておられたのです。そして、イエスが三位一体の第二の位格である御子なる神だと気づくなら、イエスが私たちの罪のために死ぬ目的でこの世に来てくださった神ご自身であるとわかります。

イエスに起こったことは、すべて神のお定めになった計画のうちであらかじめご存知だったわけです。イエスが苦しみに遭われた多くのことについて、イエスが生まれる何百年も前に預言されていたことを考えれば、それは明らかです。これらの預言がどのようなものだったか思い出すために、一年ほど前に十字架の学びをした際使ったリストが週報にはさんであります。これは預言の全リストではなく、ただの一例ですが、おうちに帰って見てみてください。みことばの

預言の成就は、聖書が神のみことばであるという力強い証拠です。なぜなら神のみが未来のことを知っておられるからです。

次に、誰がイエスを十字架につけたか、ということに注目してください。悪い人たちが手を貸したのはもちろんですが、ペトロはここで「あなたがた」がイエスを十字架につけたと言っています。イエスを十字架にはりつけたのが誰か知りたいなら、鏡を見てその中に誰が映っているか見てみてください。家に帰って鏡の前に立ち、その中の人に指をさして、「あなたがイエスを十字架につけた」と言ってください。言い換えれば、私がイエスを十字架につけたのです。もし今までに罪を犯したことがあるなら、もし神の律法に反することを言ったりしたりしたことがあるなら、私たちはイエスの十字架上の死にいくらかでも責任を負っているのです。イエスが私たちの罪のために死んでくださったからです。聖書は明確に次のことを語っています。そして私たちもそれが正しいと分かっています。**ローマ 3:10「次のように書いてあるとおりです。『正しい者はいない。一人もいない。』」**

イエスが死なれたのは私たちのせいだというのは耳に痛い話です。しかし、この悪い知らせからとても良い知らせがやってくるのです。次にペトロはイエス･キリストの復活について強調しています。**使徒 2:24 「しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかったからです。」**三日目に イエスは死からよみがえられました。アーメン！イエスの復活は、私たちクリスチャンの信仰の核となる部分です。復活によって、世の罪のためのイエスの犠牲が十分なもので神によって受け入れられたことが証明されます。また、イエスが罪と死に打ち勝ったことも証明されます。イエスの復活はまた、神の約束の証でもあります。その約束とは、キリストにある者は皆イエスとともに生きるよみがえりのいのちをいただくというものです。

ペトロは公の場で大胆にイエスの復活を語りました。これはイエスが十字架にかけられて二ヶ月も経っていないときのできごとです。ですから、神話が生まれたり、偽りが定着するほど時間は経っていません。ペトロは復活を大胆に語りました。それは彼自身がよみがえりの主イエスに何度もお会いし、食事まで共にしたからです。ペトロは自信を持って復活を語りました。エルサレムの誰でも空っぽの墓を見に行くことができるとわかっていたからです。復活は、イエスの弟子たちが語り続けたことです。それは、イエスが確かに死からよみがえったと弟子たちが確信していたからです。

コリント第一 15:3-6 のパウロのことばを見てみましょう。**「15:3 最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、 15:4 葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、 15:5 ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。 15:6 次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。そのうちの何人かは既に眠りについたにしろ、大部分は今なお生き残っています。」**復活した主イエスに会ったと証言できる 500 人以上もの目撃者がいました。その大半が、パウロがコリントの教会に手紙を書いた時点でまだ生きていました。これこそ、イエスの復活の信憑性を決定付ける根拠です。

復活は旧約聖書でも預言されています。それは、ベツレヘムでイエスがお生まれになるはるか昔のことです。ペトロは、詩篇 16 篇を引用し、この事実を指摘しています。**(使徒 2:25-27) 「2:25 ダビデは、イエスについてこう言っています。『わたしは、いつも目の前に主を見ていた。主がわたしの右におられるので、／わたしは決して動揺しない。 2:26 だから、わたしの心は楽しみ、／舌は喜びたたえる。体も希望のうちに生きるであろう。 2:27 あなたは、わたしの魂を陰府に捨てておかず、／あなたの聖なる者を／朽ち果てるままにしておかれない。』」**ダビデがこの

言葉を書いたとき、自分自身のことを書いていたのではありません。 ユダヤの学者たちもこの箇所がメシヤの来臨について語る預言であるという意見で一致していました。しかし、ペトロは群集の誰にも間違ってほしくなかったので、こう続けました。**(使徒 2:29), 「2:29 兄弟たち、先祖ダビデについては、彼は死んで葬られ、その墓は今でもわたしたちのところにあると、はっきり言えます。」**

当時、ダビデの墓に行きたいと思えば誰でも行くことができました。ですから、復活の預言がダビデ王ではなくメシヤについてであることは明らかでした。そして、ペトロは、イエス･キリストによってこの預言が成就したと力強く宣言します。**使徒 2:32 神はこのイエスを復活させられたのです。わたしたちは皆、そのことの証人です。」**ノエルさんはこの場面をこのように描かれました（絵を見せる）。大群衆が一軒の家に入れるわけはないので、ノエルさんはペトロが家の屋根から下にいる群衆に語っている様子を描かれました。

ペトロが宣言したように、私たちも宣言します。イエスは生きておられます。そしてイエスは主です。ペトロは、聴衆にもこのことを確かに分かってほしいと思い、詩篇 110 篇を引用してこのように語っています。**(使徒 2:34-35) 「2:34 ダビデは天に昇りませんでしたが、彼自身こう言っています。『主は、わたしの主にお告げになった。「わたしの右の座に着け。 2:35 わたしがあなたの敵を／あなたの足台とするときまで。』」**来たるべきメシヤはダビデの子孫であることは、誰もが知っていました。それはイザヤ書 9 章で預言されていたからです。当時、メシヤを指して「ダビデの子」と言うのはとても一般的でした。しかし、ペトロはダビデ自信がメシヤを「主」と呼んでいる点を指摘しています。ユダヤの教師にとって、これは大きな謎でした。ユダヤ人の考え方では常に先祖は子孫より偉いと考えられていたからです。

イエスご自身がこの謎について**マタイ 22:41-46** で指摘しておられます。**「22:41 ファリサイ派の人々が集まっていたとき、イエスはお尋ねになった。 22:42 「あなたたちはメシアのことをどう思うか。だれの子だろうか。」彼らが、「ダビデの子です」と言うと、 22:43 イエスは言われた。「では、どうしてダビデは、霊を受けて、メシアを主と呼んでいるのだろうか。 22:44 『主は、わたしの主にお告げになった。「わたしの右の座に着きなさい、／わたしがあなたの敵を／あなたの足もとに屈服させるときまで」と。』 22:45 このようにダビデがメシアを主と呼んでいるのであれば、どうしてメシアがダビデの子なのか。」 22:46 これにはだれ一人、ひと言も言い返すことができず、その日からは、もはやあえて質問する者はなかった。」**

ファリサイ派の人々とユダヤの教師たちは詩篇 110 篇に当惑していました。メシヤがダビデの子孫であるのに、なぜダビデがメシヤを「主」と呼ぶのか理解できませんでした。この謎の答えは、ファリサイ派の人々には想像も及ばないものでした。メシヤであるイエスは、ダビデの子であり神の子としてお生まれになるというものです。**マタイ 1:18** は語ります。**「1:18 イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。」**ヨセフとマリヤは二人ともダビデ王の子孫でした。ですから、イエスはマリヤによってダビデ王の血のつながった子孫です。また、育ての父であるヨセフにより、系図上もダビデ王の子孫となります。しかし、マリヤは聖霊によって身ごもったので、イエスの本当の父親は神ご自身です。そういうわけで、イエスはダビデ王の主であり、すべての主となるのです。

III. 結び

ペトロの論証は簡潔ですが、力強いものです。当時のユダヤ人たちは、ペトロが使徒 2 章で引用した旧約聖書の預言に精通していました。ですから、詩篇 110 篇の難題も認識していたはずです。先週見たように、群集の目の前で起こっている聖霊の注ぎは、ヨエル 2:28 の預言の成就だとペトロは宣言します。そして、このことと、イエスの奇跡の数々、とくにイエスの復活は、

イエスが救い主キリストであり、すべての主であることの明らかな証拠だと、ペトロは宣言します。ペトロは**使徒 2:36** でこのように締めくくっています。**「2:36 だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」**

群集はペトロのことばにどう反応するでしょう。次回の使徒のメッセージでそのことをお話します。けれども今日は、皆さんにもっと差し迫ったことをお聞きします。イエス･キリストの良き知らせにあなたはどう反応しますか。**コリント第二 6:1-2** のパウロのことばをよく考えてみてください。**「6:1 わたしたちはまた、神の協力者としてあなたがたに勧めます。神からいただいた恵みを無駄にしてはいけません。 6:2 なぜなら、／「恵みの時に、わたしはあなたの願いを聞き入れた。救いの日に、わたしはあなたを助けた」と神は言っておられるからです。今や、恵みの時、今こそ、救いの日。」**

もし、イエス･キリストの福音メッセージがまだ理解できないので、イエスについてもっと学ぶ時間が必要なら、神があなたを助けてくださり、あなたが納得のいくまで知ることができるように祈ります。そして、時が来てイエスを信じる決心をすることができるよう神が助けてくださるようにお祈りします。

けれども、もし今、心に熱いものを感じていて、イエス･キリストの福音が真理で良いものであるとわかったなら、信じるという決心を先延ばしにしないでください。自分が罪人であるという罪の意識を感じていますか。神があなたに目を留めて、あなたが神のところに来るのを待っておられるように感じていますか。神の愛と恵み、あわれみが自分の人生には必要だと感じていますか。もしそうなら、あなたは今、聖霊があなたの心と思いに働いておられるのを感じているのだと信じます。どうかその方を拒まないでください。先延ばしにしないでください。イエスのところに行き、そのあわれみと無償の賜物である救いを受け取ってください。簡単な救いの祈りをしますので、心を開いてともにお祈りください。そうすればあなたも救われます。祈りましょう。

IV.　祈り

天地の造り主なる神、天の御父よ、
あなたが神でありすべての主であると信じます。今までに自分が過ちを犯したことを告白します。自分の言動によってあなたに罪を犯したことを認めます。私の罪を後悔しています。すべての過ちから手を切ります。罪を悔い改めます。あなたの愛とあわれみ、恵みを感謝します。イエス･キリストの十字架と流された血潮によって赦しを与える道を備えてくださり、ありがとうございます。どうか今、私の罪を赦し、私を洗い清めてください。私のうちに入り、私を新しい人にしてください。イエス･キリストを信じる信仰を与えてください。そしてイエスといつもともに歩む勇気を与えてください。私をあわれみ、私の人生にあなたのすばらしい恵みを注いでください。私をあなたの聖霊で満たし、あなたの光のうちをいつも歩めるように助けてください。あなたを愛し、隣人を愛することを教えてください。それはあなたの栄光のためです。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

愛する主よ、
今私とともに祈ったすべての人を豊かに祝福してください。今回初めてあなたを受け入れて祈った人にも、あなたに人生を再び捧げようと祈った人にも、ゆるぎない救いの確信を与えてください。あなたの聖霊を注いでください。そして、御霊の実である愛、喜び、平安、希望などを日常生活の中で体験することができるよう助けてください。また、御霊の賜物を与えてください。そして、あなたの証人として役立つ者となれるよう助けてください。主よ、今日ここにいる一人ひとりを祝福してください。必要を満たしてください。イエスといつもともに歩めるように助けてください。あなたの御霊で私たちを満たし、新しくされ、あなたの働きのために力を得させてください。イエスの聖なる御名によって祈ります。アーメン。

週報に、「マイボイスカード」が挟まれています。これを使っていつでもご意見や祈りの課題をお知らせください。とくに、もしあなたが今日初めてイエスを受け入れる祈りをしたのであれば、このカードでお知らせくださると感謝です。神があなたを祝福してくださるよう続けてこちらでお祈りします。ありがとうございます。主がいつもともにいてくださいますように。